東京未来大学図書館報

みらい図書だより

No.3 (2015.11)

発行：東京未来大学図書館
〒120-0023 東京都足立区千住曙町 34-12 TEL：03-5813-2540（内線 1202） FAX：03-5813-2529
URL：http://www.tokyomirai.ac.jp//library/ 印刷：上武印刷株式会社

図書館と私

こども心理学部　こども心理専攻長　渡　辺　千　歳

東京未来大学図書館は年々充実し利用者数も伸びているそうです。私のゼミの４年生も秋はとくに卒業論文の作業の手を止めて「図書館へ行って来ます」と研究室から出て行きます。パソコンの利用や文献の幅を広げたいなどの目的があってのことですが、それでも図書館が身近になったなと感じています。開館時間を伸ばしていただいたので、授業が終わった後に課題レポートや発表のための資料を図書館で作成する学生も増えているようです。

本来、図書館は蔵書の数や種類、またネットワークや利用しやすさなど機能の面から評価されるべきものなのでしょう。私が学部時代を過ごした東京女子大学の図書館は大学を象徴するレトロで瀟洒（しょうしゃ）な洋風建築の「本館」にありました。あまり知られていませんが、今から 97 年前アメリカとカナダのキリスト教会が日本の女子教育のためにつくった大学で、英名を“Tokyo Woman's Christian University”といいます。昭和６年に建設された本館は今では文化庁登録有形文化財となり、初代学長である新渡戸稲造の資料を展示する記念室へと姿を変えましたが、かつてはキャフェテリアと購買部が地下階にあり、地上部分が図書館でした。外壁はクリームがかった白ですが、中に入ると薄暗くひんやりとした空気に本の匂いが漂い、自然と気持ちが静まりました。黒い木の階段、手すりの先の小さな彫刻、針葉樹の葉の模様のステンドグラス、高い天井、控えめなシャンデリア、整然と本が並ぶ古い書棚。図書館は外の世界から隔てられた異空間のように思えました。

２年生で学科に分かれてからは新しい建物の心理学科図書室で文献を探すことが多くなりましたが、それとは別に本館の図書館の雰囲気が心地良くて一人でよく訪れていました。具体的な就職のイメージが描けず資格取得などの目標も持てず靄（もや）のかかったモラトリアムの日々を、タイムスリップしたような古い洋館で本に囲まれて過ごせたのは、とても贅沢で幸運なことでした。

未来大の図書館は、明るい木の色と照明の色がやわらかく温かい雰囲気で、やはり学生時代の思い出の１ページにふさわしい場所だと思います。

社会人と共に学ぶ大学 （東京未来大学今昔物語　その２）

エンロールメント・マネジメント局次長　前　田　孝　治

2007 年４月に開学して９年目、次年度はいよいよ開学 10 周年の節目です。唯一無二の大学への道は未だその第一歩に過ぎませんが、延べ入学生約 5,700 人、在籍生 2,400 人、卒業生 1,800 人、保護者、高等学校、実習・就職先、地域、取引先、教職員、全ての皆様のお陰で今があります。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

私は、開学前年に大学開設準備室に着任し、これまで主に通信教育課程の運営と官公庁への設置申請事務に従事してきました。全くの素人でしたが、教育行政の奥深さ、高等教育機関としての社会に対する責任、そして何より本学で学び、各々の苦難を乗り越えて卒業し、ご活躍される社会人学生・卒業生との密な関わりにより、いつもやりがいをもって仕事に取り組めています。特に、仕事や家庭を持ちながら学業を両立する社会人学生の皆さまの意欲の高さと信念には感服します。

開学当時は、大学進学率の上昇に伴い、大学設置は規制緩和の時代でした。しかしこの 10 年で時代は様変わりし、18 歳人口の激減、学力低下、グローバル化、地域再生、アクティブラーニング、メディア授業等、多くの課題を抱えています。このような中で、今後の大学には社会人学生の存在がとても重要だと考えています。当然、将来を担う若い大学生も重要ですが、知識と経験を持った社会人にとっての学び直しと、若い発想力を持った学生にとっての実学が、同じ教室で融合し循環することによって、これからの社会の発展に貢献できると信じています。このような取り組みには課題もたくさんありますが、実現に向けて一歩ずつ取り組んでいきます。これからも、学生のための、唯一無二の大学になれるよう奔走してまいります。

司書のつぶやき

図書館司書　伊　藤　結　美

日本国内には、貯蔵書物や外観など、さまざまな意味で個性的な図書館が存在しています。そんな図書館の１つ、マンガ専門の図書館、「京都国際マンガミュージアム」（京都市・中京区）に行ってきました。

京都国際マンガミュージアムは、京都市と京都精華大学の共同事業で、いまや世界から注目されているマンガの収集・保管・展示およびマンガ文化に関する調査研究及び事業を行うことを目的としているそうです。図書館といっていますが、ここは博物館的機能と図書館的機能を併せ持った、新しい文化施設です。

保存されているマンガ資料は、明治の雑誌や戦後の貸本などの貴重な歴史資料や現在の人気作品、海外のものまで、約 30 万点。そのうち約 25 万点の資料については、資料保存という見地から閉架式となっています。残りの５万点の資料は自由に閲覧することができ、館内の壁中にズラーっと並んでいました。これを「マンガの壁」というそうです。

京都国際マンガミュージアム

建物は、元・龍池小学校の昭和４年建造（一部除く）の校舎を活用しています。

このミュージアムの醍醐味は、校舎の前の芝生にマンガを持って行って読むことができることです。芝生でごろごろしながら自由に読めるのです。私が行った日はとても暑くて外で読んでいる人は少なかったのですが…。

子どもの頃の憧れ、「図書館の本が全部マンガだったらいいのに」と、「学校でマンガが読めたらいいのに（しかもねっころがって！）」が同時に味わえました。

そして、この京都国際マンガミュージアムの館長は、養老孟司さんです。あいさつ文に、「マンガはサブカルチャーだという考え方もありますが、日本文化の中では実に大きな役割を演じています」と書かれていました。京都という土地柄もあるのか、利用者の半分くらいが外国人で、学校の廊下や階段で好きな格好で好きなマンガを一心不乱に読んでいました。

お近くに行かれることがありましたら、是非寄ってみてください。

ライフステージごとの「一冊」

思い出の本・忘れられない本

東京未来大学の先生方ご自身が人生の節目、節目で影響を受けた本、思い出に残る本を紹介します。

①私の 10 代（少年期）の一冊
②私の 20 代（青年期）の一冊
③私の 30 代（壮年期）の一冊

及川　留美先生（こども心理学部）

①『羊をめぐる冒険』村上春樹
現実世界のようで、どこか現実とはかけはなれた世界の物語。不思議な村上ワールドに惹きこまれるきっかけとなりました。

②『竜馬がゆく』司馬遼太郎
知人に薦められて手にした一冊。全８巻とかなりの長編でしたが、一気に読みすすめたことを覚えています。

③『ミッキーマウスの憂鬱』松岡圭祐
有名テーマパークでの事件について書かれたフィクション。読んで以降「夢の世界」の裏側が気になってしかたありません。

大橋　恵先生（こども心理学部）

①『銀河英雄伝説』田中芳樹
同盟と帝国の抗争を描いた SF で、人物や政治的動きの描写が深く、高校時代同盟派と帝国派に分かれて喧々囂々（けんけんごうごう）した思い出の本。この本から歴史の見方を学んだと豪語します。

②『十角館の殺人』綾辻行人
純粋に謎を追う「本格もの」にはまっていた大学・大学院時代、最も印象深い本。結末の意外さを楽しみたい方にお勧め。

③『魂のいちばんおいしいところ』谷川俊太郎
頁をめくる度に、しみじみとした温かさがこみ上げ、綺麗な気持ちになれます。詩もいいものだと思わせてくれた本。

おすすめの一冊『ちぐはぐな部品』星　新一　角川文庫

モチベーション行動科学部　学部長補佐　高　橋　一　公

昭和 50 年頃だったと思う。私は、郊外にある駅前の間口２間ほどの小さな本屋でその文庫本を 220 円で購入し、何とも言えないそのユーモラスな世界に陶然となっていた。学校の図書室には文庫本は少なく、ちょっと毒の利いたこのショートショートを積極的に開架するような時代でもなかった。だから町の本屋に足を運んだ。

『ちぐはぐな部品』は星新一のショートショートである。30 篇の短編集で、短いものでは３ページ弱とすぐに読めるもので、力を抜いて読んでみると「面白い」という感想がまずはあてはまる。しかし､40 年たって読み直してみると「面白い」という思いよりも「怖い」という感想が先に立つようになる。この SF やお伽話のような世界の根底に横たわるのは「人間の強欲さ」であり「残酷さ」そして「弱さ」である。主人公が人間ではないストーリーもあるがそれは擬人化されており、人間の深層を抉ったものであるに違いない。だからこそ「面白い」のである。

「凍った時間」「抑制心」「壁の穴」は経験を積んだこの年齢だから理解できる人間の深層を、「いじわるな星」「シャーロック・ホームズの内幕」「鬼」は人間社会の闇を強烈な皮肉で表現している。すべての作品が 40 年以上前のものだが、劇場的な状況描写が少なく、読み手のイマジネーションを投影させるためか、古さを感じさせることはない。作品によっては主人公の視点でストーリーを追いかけ、また別の作品では第三者の視点で冷静にストーリーを追うこともできるという多面的な「面白さ」もそこにはある。

最後に、現在は表紙のイラストも変わってしまったが、初版版は和田誠氏のイラストが使われていたことも付け加えておきたい。

図書館からのお知らせ

▶ 第１回「東京未来大学ビブリオバトル」を実施

2015 年７月 20 日、図書館で、第１回「東京未来大学ビブリオバトル（自分の読んだ本がいかに面白かったかを紹介し、一番面白かった本を決めるゲーム)」が開かれました。Book Link（未来大学生 NPO 団体）の皆さんが中心になって実施してくれました。大坊郁夫学長も出演されて盛り上がりました。今後も定期的に開催していく予定です。

▶ ボローニャ世界の絵本展

2015 年３月に実施したボローニャ世界の絵本展は、お陰様で好評をいただきました。

今年度も実施の予定です。詳細は図書館ホームページでご確認をお願いいたします。

● 磯　友輝子先生（モチベーション行動科学部）

①『作文集　泣くものか』養護施設協議会編

10 歳のときに父の書棚から手に取りました。養護施設で暮らす同世代の子ども達の叫びに触れ、涙が止まりませんでした。

②『モモ』ミヒャエル・エンデ

小学生で一度読みましたが、大学の授業で禅の影響を受けた作品だと知って再読し、「生きる」意味について考えました。

③『東京タワー　オカンとボクと、時々、オトン』
リリー・フランキー

田舎の両親が心配になり出した頃に読みました。綴られた母への思いが自分の思いに重なり、一気に読みました。

● 温山　陽介先生（エンロールメント･マネジメント局）

①『ぼくらの七日間戦争』宗田理

理不尽な社会に正面から立ち向かう、中学１年の主人公たちのエネルギーと絆。大人になっても忘れたくないものです。

②『私にとっての 20 世紀―付最後のメッセージ』
加藤周一

現代社会の成り立ちとは？日本人の感性とは？物事を知り､考えるとはどういうことなのかを教えてもらいました。

③『部下を持ったら必ず読む　「任せ方」の教科書』
出口治明

とてもわかりやすく、実際に活用できるリーダーシップの基礎が書かれています。本学学生にも、お勧めです。

図書館の利用状況・蔵書数

	利用状況			蔵書数	
	利用者数（人）	貸出冊数（冊）	開館日数（日）	図書（冊）	雑誌（種）
H24年度	5,693	2,797	273	37,137	234
H25年度	16,899	5,884	236	41,139	243
H26年度	24,552	11,246	251	45,357	564

図書館にある本　学生作品から

大溝　舞さんの作品

島田奈緒さんの作品

編集後記

先日、担当する国語の授業でちょっと驚いた。本の部分名称を説明していたときである。表（おもて）表紙･裏表紙･背表紙から、天・地・小口・見返し・「扉」へと進んだ。扉は、「韋編三絶（いへんさんぜつ）」への備え。本は、何度も何度も読まれる。綴じ紐が切れる。表紙が取れる。表紙が取れても書名が分かるように、表紙と同じ情報を記しておく。それが扉だ。「皆さんが教師となって文集を作るとき、扉や奥付を入れると本の体裁が整います」。説明は快調。続いてこう指示した。「鞄から本を出して、本の扉を確認してみましょう」。ところが何と、本を持っていた学生がクラスで２名。立場がなかった。デジタルの時代ということなのか。

こういう時代だからこそ図書館の出番かもしれない。図書館に足を運び、司書に相談して本を借りる。必要な箇所をメモに取り、メモを取りながら記憶する。期限までに返却し、また、次の本を借りる。先生のおすすめの本を探してみる。他大学の図書も借りだしてみる。そのような手作業がここにはある。図書館をとおして、全国の大学にまでつながっていくという大きな価値がある。図書館が発信できることはまだまだ多い。（神部秀一）